あなたと博物館

松本市立博物館ニュース　No.225　2019.11.1

令和元年9月21日
第1回博物館まつりを開催しました

昔の遊び体験

甲冑体験

フィルム放映

街中ウォッチング

コンサート

カータリ作り

昔の暮らし展示

平成11年からはじまった松本市博物館の日。今年は、博物館まつりを開催し、日頃博物館で活躍されているエムの会、友の会、市民学芸員の会が催しを開催しました。当日はあいにくの天気でしたが、大勢の来館者で賑わいました。博物館が市民の皆さんの行きたい場所、楽しみながら学べる場所になれたらと思います。

もくじ

誌上博物館 ◇ 明治初めの西国風景―馬場治左衛門たちが見たものは―……2-3
ガイドコーナー ◇ はんてんぼく……4

美しく生きる。
健康寿命延伸都市・松本

明治初めの西国風景
―馬場治左衛門たちが見たものは―

はじめに

馬場家には、江戸時代中期から明治時代にかけての古文書が多く残されています。その大半は行政文書で、平成29年度には企画展「馬場家住宅20年の歩み」の中で「宗門人別改帳」の一部や絵図などを紹介しましたが、資料としての展示履歴はありません。

これらの資料については、平成28年度まで提携を結んでいた名古屋大学（名古屋大学重要文化財馬場家住宅研究センター）の関係者が、提携終了後の現在も、独自の調査を行っています。

今回の展示は、そうした馬場家資料の利活用の一環として実施しました。テーマは、一般的にも受け入れやすい、現存する馬場家住宅の建物群を設えた第12代当主馬場治左衛門が記した明治初めの旅の記録である「道中日記録」（以下「日記録」）を取り上げました。展示にあたって、同センターに所属していた愛知県立大学准教授の服部亜由未さんの協力を得ながら、当時の旅の実態などの紹介を試みました。

1 馬場治左衛門と「道中日記録」

「日記録」を記した馬場治左衛門とは、いかなる人物であったのでしょうか。

彼の生年はよくわかっていませんが、関連資料によれば、文化5年（1808）頃ではないかと考えられています。ですから現在の重文馬場家住宅の建物群は、30代後半（文庫蔵）から60代初め（茶室）に、四半世紀をかけて順次建てていったということになります。

建物のうち文庫蔵には、治左衛門が建てたことを示す資料の一つとして、建物の部材の一部に記されている墨書が残されているので次に示します。

此土蔵
大工棟梁
埴原村
花村姓
霭吉殿
建候吉日
弘化二年
巳二月
晦日ニ立候
明白実正ニ
御座候間
相違無
御座候以上
馬場治左ヱ門
改候事

ここには、弘化2年（1845）2月末日に、埴原村（現松本市中山）の大工花村霭吉が建てたことを馬場治左衛門が確認したと書かれています。

馬場家の伝承では、治左衛門について、幕末から明治という難局の中で、菜種油などの商品作物の栽培とともにその専売権を持つなど、多角的な経営によって財をなし、その上で諏訪藩への多額の資金援助を行った人物と伝えられています。

旅に出た明治6年は、まだ世情は安定していなかったと思いますが、建物の建築が終わり、ひととおりの事業を行い終わった治左衛門は隠居をして、妻を伴っての旅に出たのです。この時の年齢は65歳くらいと考えられます。また妻のさいも、途中で病気にかかってしまったようですから、決して楽な旅ではなかったはずです。

この旅の6年後、明治13年に治左衛門は世を去りました（推定71歳）。

2「道中日記録」からわかること

(1) 神社仏閣

明治6年（1873）、この少し前に馬場家当主の座を退いて隠居となっていた治左衛門は、妻のさい・下人の源内の2人を伴って、西国への3か月にわたる旅に出ました。その時の記録がこの「日記録」で、表紙・裏表紙を合わせて187ページに及ぶものです。

道中日記録表紙

左に示した表紙に「神社仏閣名所旧跡無落記之」と記されているように、旅先で参拝した寺社の記録が多くを占めています。金刀比羅宮や伊勢神宮など、江戸時代から知られる神社が主な参拝地ですが、服部さんの研究によれば、この旅の中で彼らが参拝した寺社数は大小200箇所を超えており、旅の主目的が寺社巡りであったことがよくわかります。

その他に訪れた土地で見聞きした内容や名物、また宿泊費や交通費の支払い記録など、多岐に及んだ内容となっています。

寺社の参拝記録の中には、その配置図を挿絵として記されているものがいくつかあります。これらの中には、現在の案内図と比べても違いがないものもあるため、よく観察していたことをうかがわせ

ます。

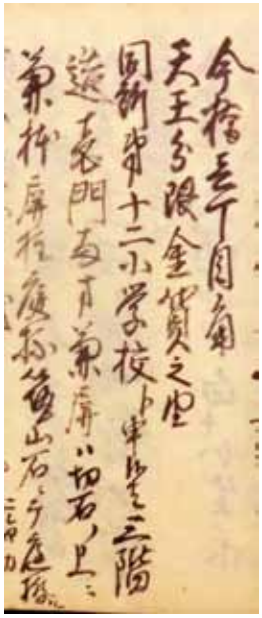
観察していたのは寺社の様子だけではありません。学校や鉄道敷設、城郭の破却など、西国で見た明治初めの風景についても事細かく記載されており、幕末から新しい時代を迎えての文明開化という変わりゆく日本の様子を記しています。さまざまな事柄がわかる「日記録」ですが、次項では特に明治初めの風景について紹介します。

(2) 文明開化

明治6年とはどのような年でしょうか。「日記録」の中での記載と関連のある事項を中心に、その前後と合わせて見てみます。

まず学校制度について、前年明治5年の学制発布を受けて、松本では開智学校が開学しました。これは廃寺となっていた松本藩主戸田氏の菩提寺であった全久院の建物を利用した、筑摩県学の後身校です。当時の筑摩県令永山盛輝の施策として教育の普及があり、筑摩県学～開智学校はその一つでした。現在の国宝旧開智学校校舎は、その3年後の明治9年に落成しました。

「日記録」によれば、治左衛門たちは、大阪で新しい時代の学校建築を見ています。右にその本文を紹介しています。書き下すと、「今橋壱丁目角／天王分限金貸之由／同所第十二小学校ト申候者三階／造表門両方兼扉ハ切石ノ上ニ／兼躰扉柱庭抔筑岩ニテ庭拵ル」となります。今橋1丁目は、現在の大阪市中央区にあり、大阪市の中心街の一つで、そこに3階建ての、表門に鉄の扉が取り付けられた学校の建物があったことが記されています。


十二小学校

鉄道については、これも前年に新橋横浜間（汐留桜木町間）が営業運転を開始しました。関西地方でも明治7年には大阪神戸間が開通しています。

「日記録」の中に、現神戸市域付近を歩いていた時の記録として「陸床几」という文字があります。「床几」とは「蒸気」のことで、「かふべヨリ大坂迄巾六間ニ鉄道ニテ陸床几新道出来也」と記されており、これは「神戸から大阪までの、敷幅が約10mの、蒸気機関車が走る新しい道ができる」という意味になります。これは翌年開通する大阪神戸間の鉄道のことを指しているようです。この他には蒸気船が航行している様子も記されていることから、明治になって、新しい動力による交通機関が登場したことがわかるものとなっています。

ちなみに松本まで鉄道が開通するのは、この29年後、明治35年までくだります。

次に、この頃全国的に行われていた城郭の破却の様子も記しています。松本城では天守を市川量造が買い戻して残ったという話はよく知られていますが、それ以外のほとんどの建物は取り壊され、本丸は農事試験場などに利用されていました。

「日記録」にも、いくつかの城での破却の様子を見たことが記されています。今回の展示では三重県の事例を紹介しています。津城と桑名城では状況が異なっています。津城では「津ノ御城者一向ニコハシ不申」とあり、まだ取壊しに着手していないと書かれています。桑名城では、「桑名御城下御城者不残コハシ塀御門抔も一切無之候」とあり、象徴であった三重の辰巳櫓が既に取り壊されていて、それ以外の建物も壊されていた様子がわかります。この時には壊されていなかった津城も、その後取り壊され、現在では石垣と水堀、復興櫓のみとなっています。

桑名城辰巳櫓跡と水堀

おわりに

「道中日記録」は、このように単なる旅の記録ではなく、日本の近代化の様子がわかる資料であることがお分かりいただけましたでしょうか。

今回の企画展では、治左衛門たちが見たであろう事象を紹介する形として開催してきましたが、その全体像を紹介できたとはいえません。今後さらに深く掘り下げて研究していきたいと思います。

参考文献

服部亜由未『平成27年度研究交流会～馬場家文書が語る歴史～　所載「馬場家第12代当主の旅～『道中日記録』より～」』　名古屋大学重要文化財馬場家住宅研究センター

（馬場家住宅　学芸員／澤柳秀利）

市立博物館から ☎0263-32-0133

まる博deウォーキング

地図を片手に市民学芸員の案内で歩きながら、松本のまちの文化・歴史を再発見する企画です。今回は城下町の南西部を中心に巡ります。ぜひご参加ください。

日　時　11月16日(土)午後1時30分～3時30分
会　場　市立博物館前に集合後、市内散策
料　金　無料
定　員　15名(先着順)
コース　旧開智学校跡地、瘡守稲荷、白翁稲荷、美術稲荷他
申込み　11月5日(火)から松本市立博物館へ

講演会「中世の諏訪信仰」

浄土信仰の広がりとともに中世の武士の信仰を席巻したのは狩猟を肯定する諏訪信仰でした。信濃一宮の諏訪社の信仰が全国展開するきっかけはなんだったのか。京都の諏訪氏の史料を中心に一緒に考えてみましょう。

日　時　11月23(土)午後3時～4時30分
講　師　村石正行　長野県立歴史館文献資料課専門主事
主　催　長野県民俗の会
共　催　松本市立博物館

歴史の里から ☎0263-47-4515

建築講座「松本のたてもの2019」④

地元で活躍する建築士の方々と協働で、松本の伝統的な建物を紹介する講座です。4回の連続講座の最終回を開催します。4回目は現地見学会です。

日　時　11月9日(土)午前9時～正午(予定)
場　所　深志神社周辺(現地集合現地解散)
料　金　200円(保険代・資料代)
定　員　15名
講　師　市内で活躍する一級建築士の皆さん
その他　詳細は、まるごと博物館HPをご覧ください。
申込み　電話で歴史の里へ

親子はた織り体験講座

はた織り機を使って18センチ×23センチほどの裂き織りの作品を作ります。

日　時　11月24日(日)午前10時～正午、午後1時～3時の2回
会　場　松本市歴史の里
料　金　1組1,000円(材料代込み)
定　員　午前、午後　各回5組
対　象　小学生以上の親子(2人1組)
講　師　川上　裕子氏(なかや工房にて裂き織りを主宰)
申込み　11月6日(水)午前9時から電話で受付開始

窪田空穂記念館から ☎0263-48-3440

将棋教室

プロ棋士から将棋の手ほどきを受けてみませんか。

日　時　11月9日(土)午前10時～午後3時30分
会　場　窪田空穂生家(窪田空穂記念館向かい側)
料　金　無料
定　員　60人
対　象　小中学生(午後は高校生以上も可)
講　師　プロ棋士4人
申込み　窪田空穂記念館へ

百人一首教室

百人一首に親しみ、かるた取りの上達方法を学びます。

日　時　12月15日(日)・22日(日)・令和2年1月12日(日)・19日(日)午後1時～3時
会　場　窪田空穂生家(窪田空穂記念館向かい側)
料　金　無料
定　員　各30人
講　師　中本晶子氏/短大講師
申込み　窪田空穂記念館へ

重文馬場家住宅から ☎0263-85-5070

写真展「馬場家住宅の魅力」

四季折々の馬場家住宅の美しさを、写真パネルで紹介します。

会　期　11月2日(土)～11月24日(日)
会　場　馬場家住宅主屋
料　金　通常観覧料

そば打ち体験教室

日　時　11月24日(日)午前9時～正午
会　場　馬場家住宅主屋
料　金　810円
定　員　20名
その他　馬場家住宅前ではお菜取りまつりが開催されます。

馬場屋敷ピアノリサイタル

日　時　12月14日(土)午後2時～4時
会　場　馬場家住宅主屋
料　金　無料
演奏者　ヤスヨ・テラシマ・ヴェアハーン氏

企画展「松本平の御柱」

松本地方の小正月行事「御柱」の紹介をする展示です。

会　期　12月1日(日)～1月26日(日)
会　場　馬場家住宅主屋
料　金　通常観覧料

松本民芸館から ☎0263-33-1569

講演会「民芸運動から教わった松本の家具作り」

日　時　11月17日(日)午後1時30分～3時
会　場　松本民芸館
料　金　通常観覧料(大人310円、中学生以下・70歳以上の松本市民無料)
定　員　30名　※要予約
講　師　池田素民(もとたみ)氏/長野県民藝協会副会長

体験講座「しめ飾りづくり」

日　時　12月15日(日)午前9時30分～正午
会　場　松本民芸館
料　金　300円(材料費)　※入館料別途
定　員　10名(要予約・11月6日(水)午前10時から)※小学生以上
講　師　竹下賢一氏/長野県民藝協会会員

旧山辺学校校舎から ☎0263-32-7602

第1回探古会「江戸時代末期の盗賊の探索と防犯対策」

第1回探古会（古文書読解講習会）を開催いたします。「古文書を読んでみたい」、「古文書に興味がある」という方は奮ってご参加ください。

日　時　11月23日(土)午前9時～正午
会　場　松本市教育文化センター2階　206会議室
料　金　510円(テキスト代として)
定　員　40人(要予約・先着順)
対　象　どなたでも
内　容　「江戸時代末期の盗賊の探索と防犯対策」-「万延二年百瀬知行所陣屋日記」を読む-
持ち物　筆記用具、飲み物(必要な方)
講　師　青木教司氏/元松本城管理事務所研究専門員・現NHK文化講座「歴史探訪」「古文書講座」講師
申込み　11月5日(火)午前8時30分から電話で受付開始

しめ縄作り教室

お正月用のしめ縄を作ります。

日　時　12月8日(日)午前9時～正午
会　場　松本市教育文化センター2階　206会議室
料　金　無料
定　員　25人(要予約・先着順)
持ち物　はさみ、飲み物(必要な方)
対　象　どなたでも(小学校3年生以下の児童は保護者同伴)
講　師　荒田直氏、ほか4人
申込み　11月19日(火)午前8時30分から電話で受付開始

あとがき

百舌鳥・古市古墳群が世界遺産に登録された影響か、古墳巡りの途中で考古博物館を訪れる方が増えています。松本地域の古代について思いを馳せる機会となればよいと感じています。

(K.I)

あなたと博物館 No.225
発行年月日/令和元年11月1日
編集・発行/松本市立博物館
〒390-0873 松本市丸の内4番1号 Tel.0263-32-0133
URL：http://www.matsu-haku.com
e-mail：mcmuse@city.matsumoto.lg.jp
印刷 川越印刷株式会社